

と じ ゃ か ん 宇 治

No. 25

1991年11月1日発行

宇治市中央図書館

宇治市文化センター内

〒611

宇治市折居台1丁目1番地

電話 (20) 1511



「紫式部文学賞」「紫式部市民文化賞」受賞作品も展示した、図書展示コーナー

『充実する 源氏物語関連図書』

中央図書館では、宇治市のふるさと創生事業として創設された『紫式部文学賞』『紫式部市民文化賞』に協賛して、テーマ図書展示「源氏物語へのいざない」を十月一日から開催しています。(十二月二十七日まで)

この図書展示では、源氏物語に関する入門書から始まり、研究書・美術書・現代語訳などのほか児童向け図書やカセットブックなど幅広い分野に渡る図書、三百七十タイトル七百八十冊、複本を含めると約千冊が展示され、一部の展示図書を除いて貸出しをしています。

中央図書館ではこれまで源氏物語に関する図書は、複本も含めて約三百五十冊しか所蔵していませんでしたが、今年度このテーマ展が市制施行四十周年記念事業のひとつとして、特別に予算化されたことに加え、ふるさと創生事業で『紫式部文学賞』のアイデアが当選した吉澤義則さんから賞金五十万円をそっくりり寄贈していただき、これらによって約六百五十冊の図書を新たに購入することができました。詳細は「源氏物語へのいざない展示図書リスト」をごらんください。

このテーマ展を契機に源氏物語に関する図書が非常に充実したわけですが、図書館では今後ともこの分野の収集を続ける館の特色ある蔵書のひとつの柱として育ててゆきたいと考えています。

参考業務 (レファレンスサービス)

— 図書館の仕事シリーズ ⑤ —



日々の暮らしの中で、勉強や仕事などの関係から、ふとした疑問や調べてみたい課題ができた時、あなたはどのようにおられますか。

こんな時に役に立つのが図書館の「参考資料室」です。

図書館の第一の使命は、資料の提供です。これは、利用者の方々が求める資料の「貸出し」と、疑問や質問にお応えして必要な情報やそれを含む資料をお見せして、調べ物のお手伝いをする『参考業務(レファレンスともいう)』に大きく分けることができます。

参考資料室には、調査研究・問題解決のためのさまざまな資料を揃えていますので紹介しましょう。

◎ 事典・辞書類

調べ物の第一の手がかりとなる百科辞典の他、よく利用される人名や地名などの主題別事典や、各国語の辞書、各種図鑑や年鑑、統計書、法令集、めあての資料を捜すための書誌などを幅広く揃えて多様な質問にお応えできるようにしています。

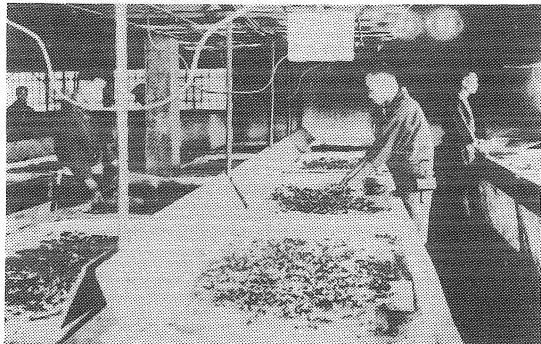
◎ 行政資料コーナー

宇治市が公開を前提として作成した統計書や報告書、公報、議事

録などの行政資料を中心に、京都府や近隣市町村の主だった行政資料を集めたのが「行政資料コーナー」で、昭和六十二年に市政への理解をより深めていただくために開設しました。国関係の資料は、白書や基本的な統計書、官報等を収集しています。

◎ 郷土資料コーナー

このコーナーには、宇治の歴史や文化、生活環境に関する資料(「宇治市史」や「巨椋池干拓誌」



碾茶の製造風景 (郷土資料「京都茶業写真総覧」より)

「平等院大観」などを収集、京都府全般や近隣市町村についても、年鑑や事典、史誌など主要な資料を揃えています。さらに特色あるコーナーをめざして、特産品「お茶」関連資料の積極的な収集と、郷土人の著作や郷土で刊行された資料の収集、保存にも努めていますので、ご協力をお願い致します。

◎ 新聞と縮刷版

当月分の新聞と四種の縮刷版を開架しています。古い新聞は、保存年限を定めて書庫に保管していますのでお気軽にお申し出下さい。

◎ 地図と電話帳

地図ケースに市の都市計画図などを収納している他、宇治市や近接市町の住宅地図、分県地図など各種地図帳を揃えています。電話帳は、ほぼ全国のもので所蔵し、よく利用されています。

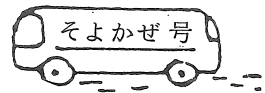
◎ 質問をお寄せいただくこと……

質問内容をよく確認した後、コンピュータによる全蔵書の検索も行って、回答を含む資料を捜します。所蔵資料に適合がない時は、府立図書館など縁縁機関へも照会し、問題解決に努めています。

なお、参考資料室の資料は一部を除いて貸出しをいたしません。コピーサービス(有料)を利用していただけれます。

参考資料室を、あなたのための「百科事典」としてご利用いただき、気軽に質問をお寄せください。

はしれ! そよかせ号



そよかせ号は九月より、南部小学校から福角(五ヶ庄福角市営住宅)へ駐車場を変更させていただきます。

きました。ステーションの移動により、ご不便をおかけする方もあるかと思いますが、より多くの方のご利用によりサービスの効率化をはかりたいと考えていますので、ご理解をお願いいたします。

さて、九月五日の最初の巡回日には、はじめての方も含め、たくさんの方がそよかせ号に集まっていただきました。京滋バイパスがすぐ南を横切り、西へ少し歩くと宇治川の流れが見わたせます。新しいステーションが一冊の本との出会いの場となり、より親しみを感じてもらえるよう頑張りますので、たくさんの方のご利用を心からお待ちしております。

また、「緑ヶ原」のステーションは昨年に引き続き、蔭田緑地の工事により来年の一月まで巡回を中止させていただきます。ご迷惑をおかけしますが、できましたらその間は、伊勢田小学校などをご利用ください。読書の秋。そよかせ号があなたの読書プランを演出します……。

図書館へようこそ

利用者インタビュー

第13回

稲木孝子さん



今回の「図書館へようこそ」は、図書館に近い琵琶台にお住まいの稲木孝子さん（六十才）にお話を伺いました。

*いつ頃から利用されていますか。
中央図書館の利用は、五年前近くに引越してきてからです。私、昭和四十四年に巡回を始めた「そよかぜ一世号」には思い出があるんですよ。当時、横島紫ヶ丘に住んでいましたが、巡回場所の公民館前のポールを抜いて待ちうけていたものです。一世号は小さなバスで本が沢山積めるように車体の

内外に本棚があって、雨の日は巡回中止なんてこともありましたね。

*そよかぜ号の巡回を支えて下さってたんですね。さて、今回創設された「紫式部文学賞」市民代表推薦人として活躍されましたが……

私なりに大役を果たしたいと思い、参考資料室の文献を紹介してもらってまずリストを作り、図書館を大いに利用しながら短期間に燃焼して沢山の本を読破し、これぞと思う本を推薦できました。

*調べ物のために図書館を利用されることが多いようですね。

はい。古い新聞も保管されているのでコピーをとったり……。あるサークルで勉強していた「無門閣」という本でどうしてもわからないことがあった時は、早速に他の図書館から詳しい解説書を取りよせてもらってとても助かりました。

「自分史」をまとめる機会があり、十四才長崎被爆当時を手に記したのですが、不透明だった部分が図書館の本で鮮明に確かめられた時は思わず泣いてしまいました。本は、年令に応じて読むものも変わり、忘れてしまった自分と出会え、人生を広げられるものですね。

*図書館への要望をひとこと。
ゆっくりと本が読める座席がもう少しあるといいですね。

*どうもありがとうございました。

【秋の読書週間記念講演会】

源氏物語とひいなあそび

|| ひな祭の起源を探る ||

源氏ろまん'91にも協賛して、右のテーマで講演会を開催します。お気軽にご参加ください。

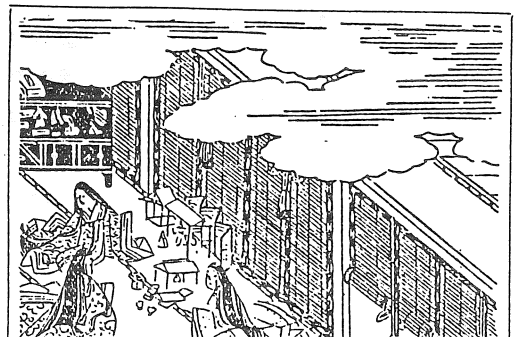
- ・とき 十一月八日(金) 一時半～三時
- ・ところ 中央公民館 展示集会室
- ・講師 中央図書館長 石沢誠司
- ・主催 中央図書館

折々…… NEWS

毎日が歩行者天国

夏休みの図書館は、毎日が歩行者天国のような人出で、大賑わいでした。新しく利用された方がなんと、〇〇〇名、普段と違い中学・高校生の姿が目につきました。調べもの、読書感想文の本選びにと、図書館を利用することが浸透してきたのだと思います。それにしても「モーツァルトの本、ありませんか」と尋ねてきた中学生の多かったこと。

八月二十～二十五日の『何でも相談コーナー』では、親子づれで採集した植物や貝の名前調べ、自由



源氏物語に見える雑遊び(「源氏物語」慶安板より)

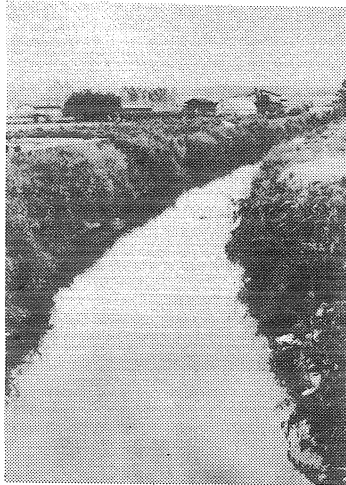
研究の進め方、宇治の歴史、太平洋戦争等の相談を受け好評でした。夏休み中、よく来ていた女子高生のお母さんが、「うちの子、図書館が気に入ったわって。レポート作成の為もあるけれど、雑誌をみたり、好きな本が返ってくるのを待っているのが楽しいわ。お昼は下のレストランで食事して、一日中お邪魔しているけれど迷惑じゃない?」と言っていました。迷惑どころか『図書館が気に入った』と言って頂けて嬉しい限りです。次の冬休み、待っています。

郷土のはなし

古 川

榎島町と宇治・小倉町との境に古川が流れています。この川は、宇治川の旧流路の痕跡で、大正までは、両側に堤が築かれていました。榎島町の小字「外」が、この流れにそった形で存在するのも、のちに付けられた字名であることを物語っています。

もともと宇治川は、JR線鉄橋付近より、いくつかの流路に分れて、巨椋池に注いでいました。しかし、豊臣秀吉が、伏見に城と町を造り、伏見をより発達させるため、交通面での整備を図りました。その一つが、文禄三年(一五九四)、宇治と向島を結ぶ堤(榎島堤)の築造です。これによって宇治川は現在の流路のみとなりましたが、唯一、灌漑用水として利用するためと、巨椋池が遊水池としての機能を果たすため、旧流路を利用した、宇治川を分流させました。これが古川です。この古川の両側に、洪水防止のため堤が造られました。この堤も文禄三年に造られたと考えられています。ところで、江戸時代



古 川

十七世紀末頃まで、榎島村は淀藩領でした。淀藩主永井尚政(一五八七〜一六六八)は、父の菩提を弔うため、興聖寺を建立しますが、興聖寺の寺域は、宇治七名園の一つ朝日園があったところです。興聖寺が建立されたため、朝日園の茶の木が多くが損亡しました。それ故、尚政は、朝日園でなくなった茶の木を、少しでも復活させるため、古川の堤防の斜面を利用して、そこに茶の木を植え、茶園としました。この茶園は古川茶園と呼ばれていました。古川の堤が、菌場堤と呼ばれるようになったのも、茶園があったからでしょう。近代になって、JR宇治駅北側に工場建設のための盛り土に利用され、今はその姿をみる事ができません。

ただ、現在では、榎島町の小字に「菌場」があり、昔の名残りを留めています。

本をかりるには

(中央図書館の場所)

一 利用案内

- 市内にお住まいの方、市内に通勤通学されている方ならどなたでも1人5冊、かりられます。
- 貸出券は、中央図書館・移動図書館の共通券です。

中央図書館

- 貸出期間は、3週間です。
- 開館時間は、9時～17時です。
- 休館日は、毎週月曜日・毎月末日
国民の祝日・年末年始
土曜・日曜もあいています。

移動図書館〔そよかぜ号〕

- 月に市内25カ所を巡回しています。
- 日時・場所は、毎月1日号の市政だより「そよかぜ号」巡回日程をご覧ください。
- 次回巡回日に返却して下さい。



予約

リクエストもできます。

編集後記

■ 本年七月の田辺町立中央図書館の開館を初めとして、十二月には八幡市立男山市民図書館、来年二月には木津町中央図書館と、府南部地域に続々

と新しい図書館が誕生します。宇治市も、いよいよ来年秋に新設の東宇治コミュニティセンター内に分館がオープンします。待ちに待った分館第一号です。地域の方々に愛される分館にしたいと、準備をすすめています。